



数日前、大好きなチェロ奏者パブロ・カザルス（1876～1973）の演奏を久しぶりにインターネットで視聴しました。彼の演奏するバッハ作曲「無伴奏チェロ組曲」は、音一つ一つに対する愛情と聴き手に訴えかけてくる強さが感じられます。皆さんにも一度は聴いてもらいたい演奏です。さて、カザルスは自身の祖国であるスペインの内戦や第二次世界大戦中でも音楽を止めることなく、終生音楽を通して平和を訴え続けた人物です。ノーベル平和賞候補者であったり国連平和賞を受賞したりもしました。彼の演奏から勇気づけられた人は数知れません。ロシアとウクライナの戦争がいまだ終結しないなか、イスラエルとイランの間でも戦争が始まってしまいました。どれだけたくさんの人々が悲しい思いをしているかと考えるだけで締め付けられるような心の痛みと憤りを感じます。第2次世界大戦が終わって今年80年。昭和20年（1945年）6月19日は福岡大空襲があった日です。私の母は筑前町に疎開していたそうですが、そこから福岡の空が真っ赤になるのを見た経験を話してくれたことがありました。今こそ、平和についてみんなで語り合い、自分とみんなが幸せあるために自分にできることを行動につなげていこうと強く思いました。周囲の人とともに幸せになるため、心が温かくなる言葉を発していきたい。「なりたい自分」に向かって思い切り進んでいけるような場所に太宰府西中がなれるようにしていきたい。久しぶりに聴いたカザルスの演奏から、今の自分を見直すことができたように思いました。



「自分は大切な存在だ」と感じる事ができた講演会でした



6月16日（月）に、3年生に向けて性に関する学習会を行いました。お招きしたのは熊丸みつ子先生。熊丸先生は座っている3年生の中にずっと入っていき、溢れんばかりの笑顔と温かなエネルギーで、あっという間に3年生の心を溶かしながらお話されました。誰しも経験する思春期ゆえの悩みや戸惑いを先生はしっかりと受け止められ「イライラするわよね。でもそれ順調よ！」「悩んでるって？順調よ！」とおっしゃいます。「あなたは3億から選ばれた一つの精子と卵子から生まれたの。あなたになれなかった2億9千9百9十9万9千9百9十9個の精子の代表。あなた

たちを命をかけて生んでくれた親が必ずいるの、そのことを忘れちゃダメ。」どれだけ自分がかけがえのない存在なのか、自分の中にすっとしみこんでくるようでした。「そのままの自分でもいいのだ」「自分を大切にしよう」そのような気持ちでいっぱいになりました。講演会后、多くの3年生が熊丸先生のもとに駆け寄り、握手していただいたり、励ましていただいたりする姿にこちらが胸熱くなり、幸せな気持ちでいっぱいになりました。

熱い夏が始まりました！～選手激励会で決意表明～

6月6日（金）に選手激励会を行いました。各部とも堂々とした姿で体育館に入場し、それぞれ掲げた目標と決意を大きな張りのある声で発表しました。その声に、言葉に、これまで仲間と共に頑張ってきたという誇りや自信が感じられました。6月15日（日）から中体連筑紫区大会が始まりました。どの部活動も目標を達成するため、最後の瞬間まで精一杯頑張っている姿が目に見えます。太宰府西中学校のみんな、心から応援しています。

